

株式会社ユリーカ

顧客志向を実現するプロジェクトマネジメントスキルとAI活用スキルを向上させ、顧客との強固な信頼関係の構築を目指す

①MVV浸透 ②マネジメント力強化 ③デジタル化・デジタルツール導入活用

業務システムやパッケージ開発およびデータベース構築、情報システム運営支援の各分野で多様なサービスを提供するニアショア開発企業です。大企業のシステムの開発実績が多数あり、ユリーカならではの強みを活かして、品質とコストの両立を実現しています。



課題

- ✓ 経営ビジョンや大切にしたい価値観の浸透が不十分であり、従業員の目標設定と経営ビジョンとの整合性を担保する仕組みが必要である
- ✓ プロジェクトマネジメントに関する勉強会を開始したがマインドセット中心で具体的なスキルセットや基準が不明確であるため、具体化が必要である
- ✓ 実業務にてAIの活用が十分に進んでおらず、AI活用のノウハウ獲得や積極活用を促す仕掛けが必要な状況である

取組み 目標

- ✓ 経営ビジョンとの整合が取れた目標設定・管理を促す仕組みを2026年度中に全社員に向けて導入する
- ✓ 2026年度中に、プロジェクトマネジメント関連資格の取得者を1名以上輩出する。また、作業時間の10%程度の削減を行う
- ✓ AI活用に向けた勉強会を2026年中に難易度別に複数回実施し、知識獲得を図る。並行して、AI活用における社内の機運醸成を進める

人材育成 計画

1. 目標管理システムの刷新と社内浸透

- 各従業員は、経営ビジョンに対してどのように貢献していくかを考え、それを踏まえた自己の目標設定を行うワークシートを策定する
- 外部環境の激しい変化を踏まえ、半年もしくは1年ごとに経営ビジョンの修正・従業員への展開を行うサイクルも構築する
- さらに、月に1度実施している全従業員向けサーベイを活用し、目標管理システムの効果・管理職からのフォロー等についてモニタリングする

2. プロジェクトマネジメントにおけるスキルセットの具体化と社内研修の実施

- PMBOK等を参考にしつつ、ユリーカの業務において顧客への提供価値向上に資するプロジェクトマネジメントスキルを整理する
 - 上記スキルセットが身に付き業務で使えるように、社内研修を「聞く・興味を持つ⇒理解する⇒やってみる⇒活用する」の段階に分けて整備する
 - 今後、プロジェクトマネジメントのスキルを特に身につけてもらいたいメンバーをピックアップし、優先的に受講を声掛け予定するほか、関連資格の取得も促す
- ※PMBOK：プロジェクト管理の標準体系

3. AI活用促進に向けた段階的な社内研修実施とAI活用推進チームの組成

- AI活用マインドセットを第1弾、プログラミングにおけるAI活用を第2弾、要件定義やプロジェクトマネジメントでの活用を第3弾とする社内研修を構築する
- 平行してAI活用推進チームを立ち上げ代替可能な業務の整理や試験運用をリードする
- 人間は課題のヒアリングや解決に向けた提案等、より付加価値の高い業務への集中を図る

計画実行 に向けて

単なるスキルの習得にとどまらず、個人の成長と組織の業績向上を同期させる仕組みづくりに挑戦します。良き伴走者としてメンバーと対話を重ねていきたいと考えています